

# 令和2(2020)年度 病害虫発生予報 第10号

令和3(2021)年1月22日  
栃木県農業環境指導センター

## 天候の変化に対応した施設管理を行い、病害虫の発生を抑えましょう。

予想期間 1月下旬～2月下旬 予報の根拠で、(+)は増加要因、(-)は減少要因を表す。

### 1 いちご 灰色かび病

- (1) 発生予想 ・発生量：**平年並**
- (2) 根 拠 ・現在の発生量は少ない(平年比0%：ほ場率、株率)。(－)  
・向こう1か月の降水量は多く、日照時間は少ない見込み。(＋)
- (3) 対 策 ・老化葉などを除去し、風通しをよくするとともに、かん水過多にならないように注意する。  
・発病した果実、果梗等は伝染源となるので、速やかに取り除き、施設外で処分する。  
・予防を主体にアフエットフロアブル等を散布する。曇雨天時には、くん煙剤を使用する。
- (4) 備 考 ・[灰色かび病薬剤感受性結果①](#)、[②](#)を当センターホームページ(HP)に掲載中。

### 2 いちご アブラムシ類

- (1) 発生予想 ・発生量：**平年並**
- (2) 根 拠 ・現在の発生量は平年並(平年比110%：ほ場率、平年比125%：株率)。(±)  
・向こう1か月の平均気温は高く、日照時間は少ない見込み。(－～±)
- (3) 対 策 ・発生が見られる場合は、チェス顆粒水和剤等を散布する。

### 3 いちご ハダニ類

- (1) 発生予想 ・発生量：**平年並**
- (2) 根 拠 ・現在の発生量は平年並(平年比76%：ほ場率、平年比55%：株率)。(±)  
・向こう1か月の平均気温は高く、日照時間は少ない見込み。(－～±)
- (3) 対 策 ・ほ場をこまめに観察し、低密度のうちに防除を行う。  
・化学農薬をローテーション散布し、抵抗性の発達を抑制する。  
・化学農薬の散布回数を減らすため気門封鎖剤や天敵製剤を積極的に活用する。また、気門封鎖剤は5日程度の間隔をおき、複数回散布すると効果が高い。  
・葉かき後は薬剤がかかりやすいので、葉かき作業にあわせて薬剤を散布する。
- (4) 備 考 ・[ナミハダニ薬剤感受性検定結果](#)を当センターHPに掲載中。

### 4 いちご アザミウマ類

- (1) 発生予想 ・発生量：**平年並**
- (2) 根 拠 ・現在の発生量は平年並(平年比103%：ほ場率、平年比133%：株率)。(±)  
・向こう1か月の平均気温は高く、日照時間は少ない見込み。(－～±)
- (3) 対 策 ・低密度のうちにマツチ乳剤[[ミカキイアザミウマ](#)]等のIGR剤を散布する。被害が大きくなるおそれがある場合には、スピノエース顆粒水和剤等を散布する。本剤はカブリダニ等の天敵に影響があるので、注意する。
- (4) 備 考 ・秋期にアザミウマ類の発生が多かった施設は、注意する。  
・[防除のポイントNo.19](#)、[アザミウマ薬剤感受性検定結果①](#)、[②](#)を当センターHPに掲載中。

### 5 トマト 葉かび病

- (1) 発生予想 ・発生量：**多い**
- (2) 根 拠 ・現在の発生量はやや多い(平年比285%：ほ場率、平年比100%：株率)。(＋)  
・向こう1か月の降水量は多く、日照時間は少ない見込み。(＋)
- (3) 対 策 ・施設内が多湿にならないように換気やかん水に注意する。また、循環扇や暖房機等を用いた通風により、施設内の湿度低下に努める。  
・草勢低下は発生を助長させるので、適正な肥培管理を行う。  
・発病葉は伝染源となるため、発生初期に速やかに取り除き、施設外で処分する。  
・予防を主体にダコニール1000等を葉裏にもよくかかるように散布する。  
・発生が見られたらパレード20フロアブル等を散布する。

- (4) 備考 ・抵抗性品種を侵す葉かび病菌レースが確認されているため、抵抗性品種の栽培ほ場でも発生に注意する。  
 ・[葉かび病薬剤感受性検定結果](#)を当センターHPに掲載中。

## 6 トマト 黄化葉巻病 (TYLCV)

- (1) 発生予想 ・発生量：やや多い  
 (2) 根 拠 ・現在の発生量はやや多い（平年比 108%：ほ場率、平年比 250%：株率）。（+）  
 ・トマトのコナジラミ類の発生量は少ない（平年比 0%：ほ場率、葉率）。（-）  
 ・向こう 1 か月の平均気温は高く、日照時間は少ない見込み。（コナジラミ類の発生一〜±）  
 (3) 対策 ・黄色粘着板を設置し、媒介虫の成虫を捕殺する。また、コナジラミ類が見られる場合は、ベストガード水溶剤、コルト顆粒水和剤等を散布する。  
 ・発病株は伝染源となるので、見つけ次第抜き取る。抜き取った株は放置せず、土中に埋設するか、ビニール袋などで密封し、枯死させてから処分する。  
 ・耐病性品種も本病に感染すると、伝染源となるため、感受性品種と同様に適切な防除を行う。  
 (4) 備考 ・[防除のポイントNo.22](#)、[タバココナジラミ薬剤感受性検定結果](#)を当センターHPに掲載中。

## 7 その他の病害虫

作物名	病害虫名	現況	発生予想	作物名	病害虫名	現況	発生予想
いちご	うどんこ病	少	やや少	にら	アザミウマ類	多	多
きゅうり	うどんこ病	並	やや多	きく	ハダニ類	平年並	平年並
	コナジラミ類	やや多	やや多				

### ○冬期のスクミリンゴガイ（ジャンボタニシ）対策について

昨年、足利市・小山市・野木町の排水路等でスクミリンゴガイの生息が確認されました。スクミリンゴガイが見られている地域では、水稻作へ向けて越冬密度を下げる以下の対策を行いましょう。

- ・耕うんを行い物理的に破壊するとともに寒風にさらす
- ・水路の泥上げにより、越冬場所をなくし越冬個体を減らす

[スクミリンゴガイに注意しましょう](#)を当センターHPに掲載中。

○病害虫防除にあたっては、RACコードを参考に、同一系統薬剤の連用を避け、異なる系統の薬剤をローテーション散布しましょう。

○花粉媒介昆虫（ミツバチ、マルハナバチ）や天敵に対する影響日数を目安に薬剤を選択しましょう。

ミツバチ・天敵等に対する農薬の影響の目安①、②、③を栃木県農作物等病害虫雑草防除指針 参考資料に掲載中。<http://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/haishinfile/list/tochigi>

○11月1日から1月31日は、「栃木県農薬危害防止運動期間」です。農薬は適正に管理し、容器のラベルをよく読み、正しく使いましょう。

### 1か月気象予報（予報期間1月23日から2月22日 1月21日気象庁発表）

平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。向こう1か月の平均気温は、高い確率60%です。降水量は、多い確率60%です。日照時間は、少ない確率50%です。

週別の気温は、1週目は、高い確率80%です。2週目は、高い確率50%です。3～4週目は、平年並または高い確率ともに40%です。

#### 向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（%）

項目	低い（少ない）	平年並	高い（多い）
気温	10%	30%	60%
降水量	10%	30%	60%
日照時間	50%	30%	20%

詳しくは農業環境指導センター（TEL 028-626-3086）までお問合せください。

病害虫情報発表のお知らせはツイッター「[栃木県農政部\(@tochigi\\_nousei\)](#)」、農業環境指導センターホームページ（<http://www.jpnp.ne.jp/tochigi/index.html>）でもご覧になれます。